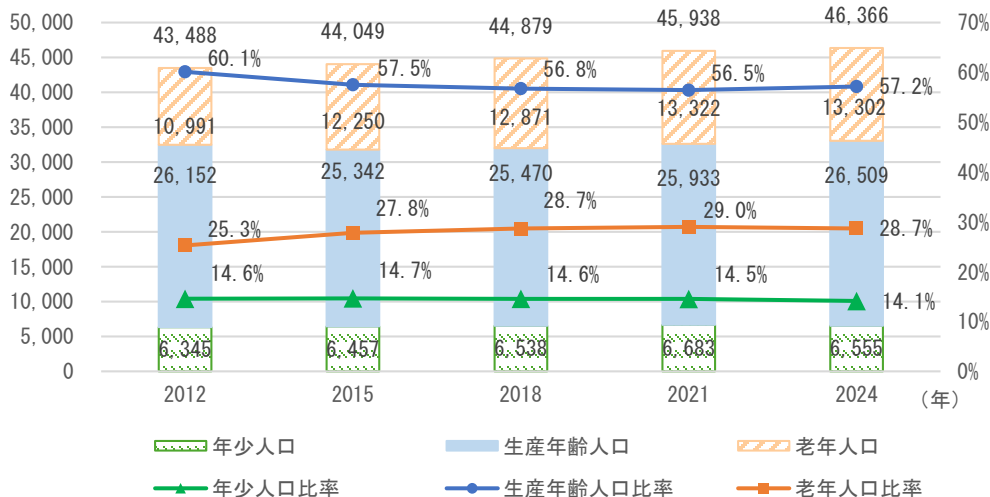


各地域の状況

①神辺エリア

(人)



神辺エリアは、地域の拠点づくりに取り組むエリアの中で唯一人口が増加している(+2,878人(6.6%))。これは道上地区や湯田地区で新たなマンションや一戸建て住宅の建設が進み、若い世代を中心に転入が多くあったことが要因と考えられる。



◆地域の声

【神辺駅周辺のにぎわい創出協議会・かなべ未来会議】

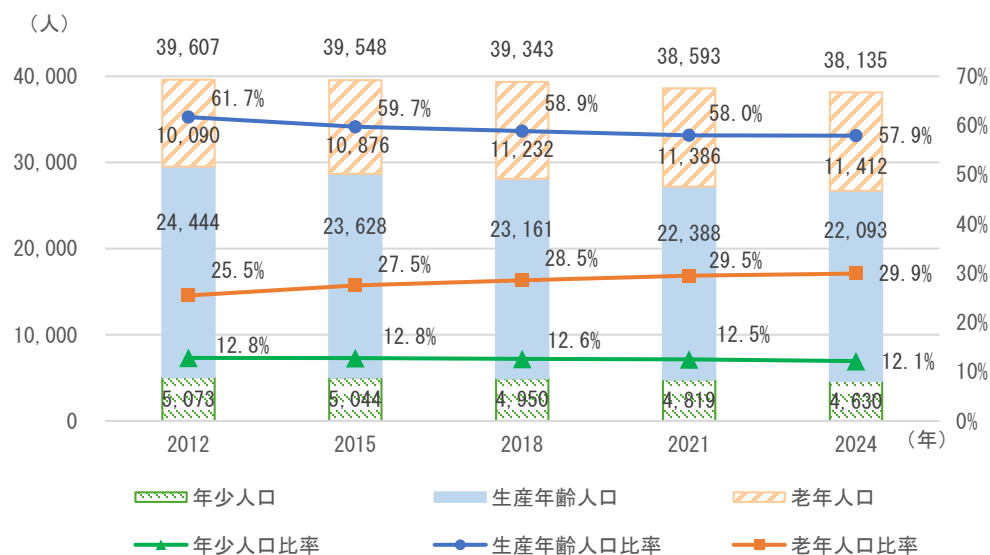
- ・様々な人がイベントを開催しやすい公園を整備し、チャレンジする人が増え、いつでも新しい発見や出会いがあるまちにしたい。
- ・古民家を改修してゲストハウス等とし、宿場町が体験でき、建築物を保存し後世に伝えていけるまちにしたい。
- ・観光バスが立ち寄れる拠点やまち歩きマップなどを作成し、観光客が増え、住民にとって誇れるまちにしたい。
- ・井原鉄道の終点駅としてお店のある駅周辺にすることでこども連れでも楽しめるまちにしたい。
- ・図書館やカフェが公園に併設された施設をつくり老若男女が集え、暮らしやすいまちにしたい。

【車座トーク】

- ・外部から来た人たちが、神辺を「面白そう」「発展の可能性のあるまち」と感じてくれるような仕組みや情報発信が必要。
- ・お母さん同士の交流の場など子育てが楽しくなるまちにしたい。
- ・地域住民が楽しめる公園を作りたい。
- ・空き家対策に取り組んでいきたい。
- ・歴史文化や商業エリア機能に加え、田畑や里山など自然を大切にする暮らしを検討することで、自然を体験できるエリアの価値が提供できる。
- ・神辺駅西側の商業施設は、こどもたちが安心して遊べる、保護者が交流できる、或いは若い世代が気軽に訪れるような施設になるという。
- ・渋滞緩和策としてのパークアンドライドの導入やお出かけ支援策としての地域循環バスの運行を提案する。
- ・神辺駅の東側は歴史文化、伝統ある神辺の核心であり、町並みをどのように保存していくかは住民として考えるべきポイント。西側ではこれからのまちづくりで、経済、商業、人が集い、コンパクトシティ化されるため、人口減少下にあってもにぎわう地域になってほしい。



②松永エリア



松永エリアは、人口減少が進む他のエリアの中でも減少率が最も小さい（▲1,472人（▲3.7%））。松永駅や高速道路ICなどがあり、福山西部の交通の要衝であることに加え、商業施設も複数立地しており、生活の利便性が確保されていることが要因と考えられる。



◆地域の声

【松永駅周辺活性化協議会・松永未来会議】

- ・松永駅北口の空き店舗を活用し、シャッター街をなくしたい。
- ・松永駅北口の商店街が活性化してほしい。
- ・若者が起業できる場所をつくりたい。
- ・クリークやはきもの資料館などを活用したい。
- ・他地域からも人が集まるよう、松永の良さをSNSで発信したい。
- ・地の利や多文化などの強みを生かし、人が増えてほしい。
- ・ウォーカブルで回遊できるまちにしたい。
- ・世代を超えて多くの人々が心地よく暮らせるオアシスのような場所をつくりたい。

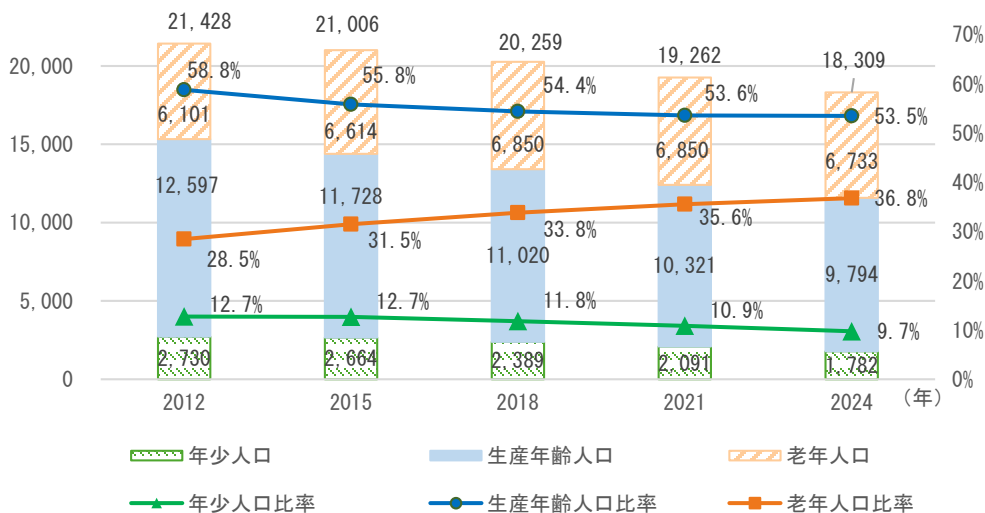
【車座トーク】

- ・松永駅北口のシャッター街を開け、若者をターゲットにした店があると活性化につながる。
- ・地域の活動が、個人の取組に留まらないように関係者が増えるといい。イベントや交流がやりやすい仕組みがあるといい。
- ・松永駅北口の商店街で実施していた「夜店」を復活させ、にぎわい再生を進めたい。
- ・こどもや障がい者など誰もが気軽に集まれる場所を作りたい。
- ・スーパーの店舗を改修し、コワーキングスペースなど様々な人が集える空間を作りたい。
- ・道路沿いに、地域みんなで植樹をして育てると、未来に向けて楽しみが持てる。
- ・はきもの資料館や旧マルヤマ商店事務所を活用し、認知度を上げたい。



③新市エリア

(人)



新市エリアは、繊維を中心とした産業も盛んではあるが、生産年齢人口が22.3%、年少人口が34.7%減少しており、市全域と比較して少子化・高齢化の進行が顕著であり、生産年齢人口の割合が低くなっている。



◆地域の声

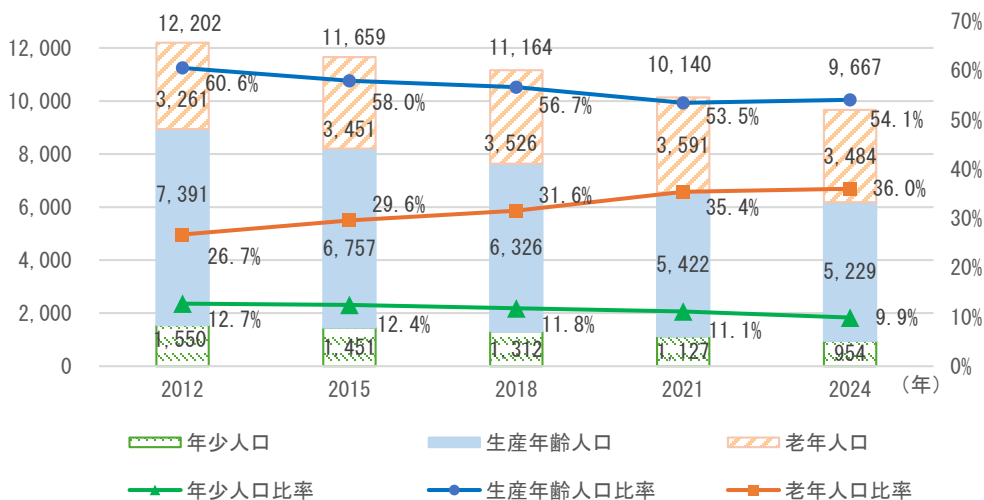
【車座トーク】

- 音楽フェスやスポーツ大会など、世代を超えた交流ができる集いの場があるといい。
- 新市を知って、訪れるきっかけになるイベントを開催したい（新市の有名な人や食べ物が集まったフェスなど）。備後餅を広めることができるといい。
- 新市には神社や祭りなど歴史文化資源が多く、歴史を知れば地元愛や地域振興にも繋がる。教育現場で歴史を伝える機会を作りたい。
- 福塩線を上手にを使ってまちを元気にできないか考えている。上戸手駅は素戔鳴神社や芦田川にも近い。駅を中心としたまちづくりをしたい。
- ふくやまブランド農作物の一つである「アスパラガス」の産地を守るために生産を行っている。農業が活発になってほしい。
- ホテルがたくさん飛ぶほど川が綺麗なまち。紅葉も綺麗でサイクリングなどで訪れる人が多い。立ち寄る場所が増えてほしい。
- アスパラガスを使った独自のお好み焼きを作り、他地域のお好み焼きと対決するフードフェスをするのも面白いと思う。
- 新市町と隣の芦田町の中心である芦田川にかわまち広場ができてほしい。
- かわまち広場があれば、イベント会場としてマルシェなどの開催をきっかけに、点で存在しているたくさんの地域資源を繋ぎ、線にすることができる。地域の人が周りから集まってくるようなかわまち広場ができてほしい。



④沼隈エリア

(人)



沼隈エリアは人口全体の減少率が20.8%となっており、生産年齢人口は29.3%、年少人口は38.5%減少しており、市全域と比較して少子化・高齢化の進行が顕著である。今後、鞆未来トンネルの開通により周遊性が向上し、来訪者の増加が見込まれている。



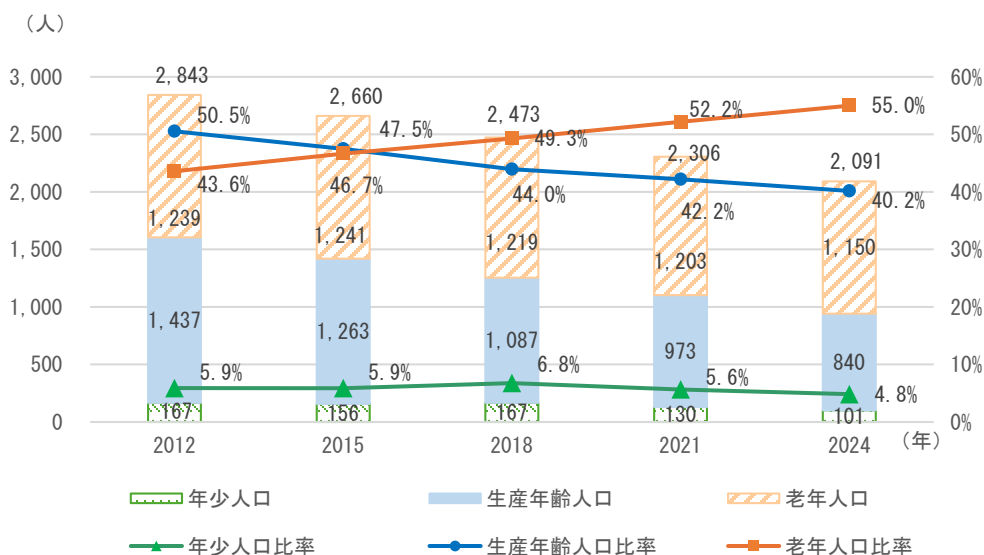
◆地域の声

【車座トーク】

- 学校や部活動の発表の場や、学生が気軽に集える場所があればいい。
- 鞆未来トンネルの開通により、鞆の浦の観光客が沼隈町に周遊しやすくなる。観光客に向けた情報をSNSで発信し、沼隈を知ってもらいたい。
- 地域での子育て支援活動を増やしながら、近隣区域の小中学校と連携し、こどもたちにとって沼隈町は良いまちだと誇りを持ってもらえるよう活動したい。
- 沼隈半島に伝わる神楽を継承するため神楽団を立ち上げた。神楽はインバウンド向けの観光資源として使える。
- 沼隈の魅力をたくさんの人にお伝えして、沼隈に住みたい、帰ってきたいという人を増やしたい。
- 沼隈町のお土産は一次産業のものが多く、ビジネスシーンで手土産になるようなものが少ない。阿伏兎観音の御利益にちなんだお菓子があればインパクトもある。
- この地域に永住したい、或いは商売をしたいと思えるようなサポートや魅力発信をしたい。
- 市無形文化財の能登原とんどなど知られていない魅力がたくさんある。こうしたものが発展の起爆剤になればいい。
- 道の駅を核にして、魅力発信や課題解決を集約していくために、定期的な地域での懇談会が必要だと感じた。
- 道の駅は観光客の誘致はもちろんだが、地域の課題解決やニーズを実現する場所になるべき。観光客と地域住民が交流できる場所、地域のにぎわい、情報発信、集客の拠点としたい。



⑤内海エリア



内海エリアは、人口全体の減少率が26.5%となっており、生産年齢人口は41.5%、年少人口は39.5%減少している。また、少子化・高齢化の進行が特に顕著であり、人口全体に占める老年人口の割合が5割を超えている。今後、鞆未来トンネルの開通により周遊性が向上し、来訪者の増加が見込まれている。



◆地域の声

【車座トーク】

- ・漁業を継続できる体制や仕組みづくりが必要で、2つの問題意識があると考えている。1つは漁業のビジネスモデルが、漁業者自身に価格決定権がないこと。もう1つは海洋環境の問題。
- ・5月から10月ごろになるとクラゲが大量発生し、漁業に深刻な影響が出ている。市で対策をしていただいているため、引き続きお願いしたい。
- ・温暖化など自然環境の変化により、アイゴによる藻場の食害が深刻化し、魚が産卵する場所やえさ場がなくなっている。
- ・底引き網漁で不燃ごみを拾うが、処理に困っている。
- ・内海町がノリやカキの産地であることが福山市内でも知られていないため、PRが重要。
- ・「内海町の将来を考える会」の空き家対策によって、約70世帯、200人が移住。
- ・内海町で、地域の皆さんが計画して行っているたくさんのイベントに魅了され、住んでみたいという人が増えたらいいと思う。
- ・景色がいためサイクリングロードがあればいい。
- ・国内外の修学旅行生を対象に民泊事業を行っている。今後さらに受入家庭を増やし、より多くの子どもたちに地域の温かさや魅力を感じてもらいたい。
- ・地域間のコミュニケーションが少なく、異なる年代で話す機会も無い。内海町がこうなったらいいなという思いをざっくばらんに話し合い、共有できる場があれば、お互いに協力しあえると思う。

